

玉藻会報

第31号

茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会 会報

発行：茨城県立麻生高等学校玉藻同窓会

行方市麻生1806

TEL 0299-72-0098 Fax 0299-72-2317

URL: <https://www.asou-h.ibk.ed.jp>

ご挨拶

茨城県立麻生高等学校後援会会長
 榊原 啓一（高三十回卒）



保護者の皆様、同窓会・後援会会員の皆様には、日頃より後援会活動に対しご理解とご協力をいただいていること、深く御礼申し上げます。

令和4年度「後援会並びに体育文化後援会総会」より麻生高等学校後援会会長を務めさせていただいている榊原啓一でございます。

さて、世界では新型コロナウイルス感染のパンデミックが発生してから3年が過ぎようとしています。その間、社会生活は一変しました。自由な往来は制限され、三密防止のための入室制限、飛沫感染防止のために暑い夏でもマスクを着用したことは、皆様にとっても記憶に新しいことと思われます。感染者や濃厚接触者となれば、著しい行動制限がなされ、さらに不自由な生活や社会経済活動を強いられました。学校においても、行事や部活動では試合観戦の制限や入場規制が敷かれ、授業ではリモートにより意思疎通の難しさなどが課題となっていたのではない

かと思われます。一方そのような状況下でも、昨年は感染防止を図りながら、後援会及び体育文化後援会の総会を対面で実施することができました。また生徒の皆さんにおかれましては、2年生が3年ぶりに関西方面への修学旅行を実施し、3学年全体では体育祭などの行事を行うこともできました。猛威を振るう感染症にも負けず、皆が一丸となってこれほどの行事や催しを充実させることができたのは、ひとえに同窓会員の皆様が様々な形で母校を支えてくださったおかげでございます。大変心強く、深く感謝申し上げます。

そのような中、政府は令和5年5月8日から新型コロナウイルスを季節性インフルエンザと同じ5類に移行することを決定いたしました。これまで当たり前だったマスクの着用も、室内外を問わず個人の主体的な選択に委ねるなど、対策の転換点を迎えるようとしています。しかし、移行したからと言って新型コロナウイルスの脅威がなくなるわけではありません。現在においても、季節問わずに感染拡大を繰り返しており、家庭、学校、職場、地域のあらゆる場面で、一層の緊張と日常を取り戻すための新たな試みが必要ではないかと思われます。麻生高校におかれましては、さらなるICT教育による授業と対面による授業を効果的に行うことにより、新型コロナウイルス感染症防止と日常生活を取り戻すことを両立しつつ、より安全な中身の

濃い教育を、生徒たちに施していただけることを期待しております。

また、ロシアのウクライナに対する軍事進攻が早1年になろうとしています。この事態は2国間に収まることなく、経済の混乱や国交上の不安など世界全体に大きな影響を与えております。同じ戦いでも、スポーツにおける戦いは、終わった後には充実感と達成感、そして友情を生みますが、同じ民族が領土の奪い合いをし、人の命が失われ人々の悲しみと憎しみが生まれるだけの紛争は、大変悲しくいたたまれないものです。コロナと軍事進攻、このような混沌とした世界状況ですが、生徒の皆さんには、麻生高校の校訓でもあ



る「至誠勤勉」「自治剛健」「和衷協同」のもと何事にも誠実に一生懸命取り組み、自らの強い意思により実行するとともに、仲間と協力し合い目標を達成することを、高校生活の中で志していただきたいと思います。

教育学校の校舎から、現校舎に移転して2年目の年に麻生高校に入学しました。先輩方に「お前の机は俺たちが運んでやったんだぞなどと言われたことを覚えております。入学の際には、新しい校舎で高校生活を送れることに大きな喜びを感じておりました。その校舎も今では老朽化が進み、現在、長寿命化工事が行われています。あの時の私のように、麻生高校生の皆さんが、新しく充実した設備の中で高校生活を送ることができ、心を心から喜ぶとともに、時の流れの速さに驚きと感慨もひとしおです。夏から始まった長寿命化工事はもうすぐ終わり、間もなく校舎の姿を見ることができるようではないかと思えます。トイレや内装、外装の大規模なリフォームを終えた校舎は、きっと生徒の皆さんの生活を大いに支えてくれることでしょう。よりよい教育環境が整備された中で、皆さんが、楽しく高校生活を送ることができ、ことを期待しております。最後にになりましたが、地域の皆様のご支援と先生方のご指導、保護者の皆様のご協力に感謝するとともに、茨城県立麻生高等学校のますますのご発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

ごあいさつ

茨城県立麻生高等学校

校長 青山 泰久



同窓会並びに保護者の皆様におかれましては、平素より本校教育活動に對しまして物心両面にわたりご支援ご協力をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

さて、三年前より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は未だに収束の兆しを見せず、今もなお、私たちの日常ばかりではなく社会経済活動全体にも影響を及ぼしています。時代もグローバル化の進展、情報社会・科学技術の進展等めまぐるしく変化し、生徒を取り巻く環境もそれらに大きな影響を受けております。このような中、学校教育においては、生徒自らが問題を発見し、答えを導き新たな価値を創造する力を身に付けていくと言うことが求められます。本校におきまして、将来社会の一員として倫理観を身に付け創造的に課題を解決することのできる力を付け、社会に貢献できる人材の育成を進めて行きたいと考えております。これらを踏まえ、今年度よ

り「スクールポリシー」を以下のように掲げ教育活動を推進しております。

「スクールポリシー」(三つの方針)

○ グラデュエーションポリシー

卒業時に身に付ける力

(育成を目指す資質・能力に関する方針)

意欲を持って学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身に付け、社会のリーダーとして貢献できる人材の育成

・至誠勤勉・何事にも誠実に一生懸命取り組むことができる。

・自治剛健・強い心を持ち、物事を自らの意志により実行することができる。

・和衷協同・目標達成のために、仲間を認め協力し合うことができる。

○ カリキュラムポリシー

教育の方針

(教育課程の編成及び実施に関する方針)
生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に据えた進路希望の実現

・ICT教育を積極的に推進し、学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりの確かな学力を育む。

・キャリア教育の推進と情報モラル教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。

・健康と安全に留意し、強健な体と不屈の精神を育てるとともに豊かな人間性を培う。

・地域とともにある学校として、行政や小・中学校と連携し、特色ある

学校づくりを推進する。

・学校教育活動全体の業務を精査し、教職員自らが適正な時間内で働くことのできる環境作りに努める。

○ アドミッショントポリシー

求める生徒像

(入学者の受け入れに関する方針)

学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自らの学習活動ばかりではなく、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組み意欲のある生徒

以上がスクールポリシーとなります。今後も、これまでの本校の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、新たな取り組みへのチャレンジを積極的に進め、本校生徒が更なる自信と誇りを持てるよう教職員一丸となり邁進していく所存でございます。同窓会並びに保護者の皆様におかれましては、麻生高等学校の更なる躍進のために、より一層のご支援、ご協力をいただきますようお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



令和四年度 各部活動の活動状況

◆男子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール大会 第3位
茨城県予選会
関東高等学校ハンドボール大会出場
全国高等学校総合体育大会
茨城県予選会 第2位
茨城県ハンドボールジュニア大会 第2位
全国高等学校ハンドボール選抜大会 第3位



◆女子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール大会 第2位
茨城県予選会

◆女子ハンドボール部

関東高等学校ハンドボール選手権大会 ベスト8
全国高等学校総合体育大会 第2位
茨城県予選会
茨城県ハンドボールジュニア大会 第1位
全国高等学校ハンドボール選抜大会 第1位
茨城県予選会 第1位
関東高等学校ハンドボール選抜大会 出場
全国高等学校ハンドボール大会 出場



◆サッカー部

関東高等学校サッカー大会 ベスト16
茨城県予選会

◆男子バスケットボール部

全国高等学校総合体育大会 ベスト13
茨城県予選会
第101回全国高等学校サッカー選手権大会 3回戦出場
茨城県高等学校サッカー新人大会 出場
茨城県予選会
◆硬式野球部
春季茨城県高等学校野球大会 出場
県南地区予選
第104回全国高等学校野球茨城大会 出場
第75回秋季関東地区高等学校野球茨城大会 出場
茨城県大会県南地区予選
代表決定戦 出場

◆女子バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール大会 出場
茨城県予選会県東地区大会 出場
全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技茨城県予選会 出場
県東地区大会
関東高校バスケットボール新人大会 出場
茨城県予選会県東地区大会 出場

◆女子バスケットボール部

関東高等学校バスケットボール大会 優勝
県東地区予選会
茨城県予選会 第5位
全国高等学校総合体育大会 第3位
茨城県予選会 第3位
全国高等学校バスケットボール選手権大会 第5位
茨城県予選会 第5位
茨城県高等学校新人バスケットボール大会 茨城県予選会 ベスト16

◆女子バレーボール部

関東高等学校バレーボール大会 第3位
県東地区予選会
全国高等学校総合体育大会 第3位
県東地区予選会
全国高等学校総合体育大会 出場
茨城県予選会
茨城県高等学校男女バレーボール新人大会 茨城県予選会 出場

◆男子ソフトテニス部

関東高等学校ソフトテニス大会 出場
県東地区予選会
全国高校総体ソフトテニス大会 出場
県東地区予選会
茨城県高等学校ソフトテニス新人大会 茨城県予選会 出場
茨城県高等学校ソフトテニス新人大会 茨城県予選会 出場



- ◆女子ソフトテニス部
 関東高等学校ソフトテニス大会 出場
 県東地区予選会 出場
 全国高校総体ソフトテニス大会 出場
 県東地区予選会 出場
 茨城県高等学校ソフトテニス 出場
 新人大会 出場
 茨城県高等学校ソフトテニス 出場
- ◆卓球部
 関東高等学校卓球大会 出場
 茨城県予選会 出場
 全国高等学校総体卓球大会 出場
 茨城県予選会 出場
- ◆弓道部
 関東高校弓道大会県予選 出場
 全国高等学校弓道大会 出場
 茨城県予選会 出場
 県東地区夏季弓道大会 出場
 県東地区冬季弓道大会 第2位
 女子個人 第2位
 女子個人 第3位
 茨城県冬季弓道大会 出場
 全国高校弓道選抜大会県予選 出場
- ◆男子陸上競技部
 茨城県高等学校陸上競技対校選手権大会 出場
 茨城県陸上競技選手権大会 出場
 男子3000mSC 第6位
 茨城県高等学校陸上競技新人大会 出場
 関東陸上競技選手権大会 出場



- ◆女子陸上競技部
 茨城県高等学校陸上競技対校選手権大会 出場
 茨城県高等学校陸上競技対校選手権大会 第6位
 女子砲丸投 第6位
 関東高等学校陸上競技大会出場
- ◆書道部
 第38回高円宮杯日本武道館書写書道大展覽会 特選 大会奨励賞 銀賞
 第38回成田山全国競書大会 特選月輪賞
 茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会 書道の部 入選
 高校生国際美術展 秀作賞 2回
 校内公演

- ◆吹奏楽部
 県東地区高等学校音楽会 参加
 県東地区プレコンクール 2022 参加
 第35回茨城県吹奏楽コンクール 県東地区大会出場 優秀賞
 第36回茨城県アンサンブルコンテスト 県東地区大会 優良賞
 第25回ソロコンテストいばらき 一次審査出場 優良賞1名
 校内「クリスマスコンサート」 (県東地区代表) 優良賞2名
 「文化部展示発表会」での演奏



- ◆写真部
 第29回関東地区高等学校写真展 山梨大会 関東展 出展
 第46回全国高等学校総合文化祭 東京大会 全国展 出展
 校内「文化部展示発表会」作品展示

- ◆美術部
 茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会 絵画の部 入選4名
 校内「文化部展示発表会」作品展示
- ◆アート部
 校内「文化部展示発表会」作品展示
- ◆文芸部
 文集『七つ星』の制作
 校内「文化部展示発表会」作品展示
- ◆JRC部
 エコキヤップ回収活動
 麻生幼稚園との交流(保育体験・クリスマスカードプレゼント)
 高校探検・読み聞かせボランティア
- ◆演劇部
 第35回茨城県高等学校演劇祭 県東地区大会 優良賞
 校内公演会 2回実施
 新入生歓迎公演会 実施



麻生高校での学び

茨城県立麻生高等学校

教諭 浅野 貴恒

(高五十七回卒)



私が麻生高校に入学を決めた理由は「近いから」とか「そんなに頑張らなくても受かりそうだから」とかそういった安易なことだったような気がする。その時には、こんなにも麻生高校と関わりが深い人生を送るとは思ってもみなかった。

私の高校生活の思い出の多くは部活動のことだ。今は無き剣道部に所属し、日々仲間と共に鍛錬を積んだ。結果こそ残すことはできなかったが、部活動の経験で得たものは私の人生の大きな糧となっている。現在、格技場が卓球場として使われていることは少し寂しく感じるが、時代と共に学校も変化していることを受け止め、卓球部の生徒たちには私が汗を流した場所であった形で麻生高校を盛り上げてもらいたい。

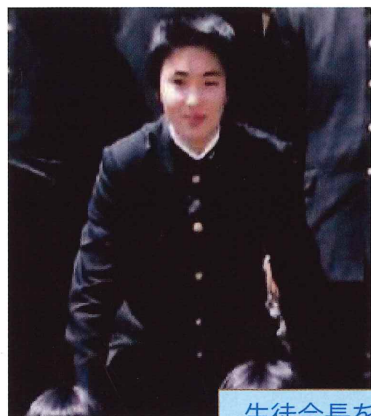
高校3年生の時には、生徒会長に選ばれた。記憶は曖昧だが、これも周りの友人や担任の先生に勧められて「なんとなく」立候補したように感じる。生徒会に入ること、私の高校生活は部活だけ、勉強だけのものではなく、より充実した経験になり多くのことを学ぶことができた。

大学へ入学し、小さな頃からの目標であった教員を目指し教職課程を履修していたが、教員への道は険しく苦しい現実を知るにつれて、教員を目指すことを諦めようかと考えはじめていた。教育実習は、行かなければ母校にも大学にも迷惑がかかるため「しかたなく」行くことにしていた。私が教育実習で担当したのは、当時6クラスの2年生文系進学クラス



浅野 貴恒

生徒会長を務めた高校時代



剣道部で汗を流す

スであった。指導教官の先生からは教科の指導法だけでなく、生徒との距離感や声かけについても指導していただいた。麻生高校の生徒は、今もそうだが、本当に素直で優しさにあふれており、当時の2Dの生徒と打ち解けるのに長い時間はかからなかった。教育実習では当時の先生方からも、生徒たちからも学びがあった。この教育実習が無ければ、私は教員を目指すことを諦めていたかもしれない。

それまで、教員を目指すことに迷いがあったので、教員になるための試験を受けずに大学を卒業した。しかし、教育実習での経験を忘れることができず、茨城県で臨時的任用講師の登録をした。すぐに麻生高校から連絡が来て、大学卒業から4年間、麻生高校で勤務することになった。実際に仕事をしながら、教員という仕事の厳しさ、楽しさ、やりがい、様々なことを再びこの麻生高校で学ぶことができた。その後、試験に合格し

9年間を経て、現在は教諭として再び麻生高校で勤務することができている。今は、時に楽しく、時に真剣に生徒たちと共に日々を過ごしている。

こうして思い返すと、私の人生は麻生高校と共にあったと言っても良いと感じる。麻生高校との関わりが、今の教員としての自分の人生を作り上げている。私にとって、麻生高校の生徒は教え子であり、後輩でもある。彼らに、教員として、先輩として道を示してあげることが私の役割だと思う。一方で、教員という立場に驕らず、生徒たちから学び、自身も成長していきたい。そして、麻生高校がこれからも発展を続ける一助となるよう学び続ける教員を目指す。



東京玉藻会総会開催

東京玉藻会(箕輪光博会長・高13
回卒)の総会並びに懇親会が、令和
4年12月3日(土)に、三年ぶりに
東京四谷のスクワール麴町会館にて、
50余名の出席のもと盛大に開催され
した。麻生高等学校を代表して青山



泰久校長、大貫誠事務長、神原忠志
教頭、大崎公稔渉外部長が招待され、
会員の皆様と懇親を深めて参りまし
た。

東京玉藻会は、旧制麻生中学校と麻生高等学校を卒業し、現在東京近郊に在住する同窓会員の支部組織です。参加を希望する方は、深澤眞さん（高14回卒）までご連絡ください。



連絡先

深澤 眞

TEL 03-3943-2525 東京都文京区目白台3-17-6



長壽命化工事

長寿命化工事の一部が完了し、本校舎にかかっていた建築シートが取られました。

長らく隠れていた校舎外観は陽光を浴び、生徒たちは久しぶりに、教室から霞ヶ浦の美しい眺めを楽しむことができるようになりました。



編集後記

玉藻会報第三十一号を発行することができました。編集をさせていただきます中で、本年度はまさに変化に富んだ年であつたと感じさせられました。大きな変化の潮流の中においても、何か貫き通す芯を各々が持ち、しなやかにたくましく生きていきたいものです。

来年度がより良き一年となりま
すよう祈念し、編集後記とさせて
いただきます。